

2022年2月8日

<各位>

ナノキャリア株式会社
代表取締役社長 松山 哲人
(4571 東証マザーズ)
問合せ先 IR担当 土屋 千映子
電話番号 03-3241-0553

2月4日 個人投資家向け会社説明会開催のご報告

当社は、2月4日（金）に福岡にて開催された会社説明会に参加いたしました。当日は、70名を超える熱心な投資家の方々にお集りいただき、大変貴重なお時間を頂戴できましたことを、心より感謝申し上げます。誠にありがとうございました。

当日は、会社概要の説明に加え、質疑応答の時間をより充実させたく、時間を長く設定し、多くのご質問等をいただきました。また、終了後には、多くの株主様と直接対話する機会にも恵まれ、大変心強いご声援をいただきましたこと、心より御礼申し上げます。革新的な治療薬を生み出し、人々の健康と幸福に貢献することを株主様と共有し、代表の松山をはじめ、社員一同、これまで以上に目標に向かい励む力をいただきました。誠にありがとうございました。

会場でいただいた質問と回答の概要について、下記に共有いたします。

	質問	回答
1	ナノキャリアはここ数年で変わったと言われています。自社技術だけではなく、収益化を急ぎながらも画期的な製品の導入を進めています。ENT103が販売に近づいてきていますが、収益化のスケジュールなど教えてください。	ご案内のとおり、当社は早期収益化を目指した活動にシフトしました。ENT103は第Ⅲ相臨床試験で主要評価項目を達成し、今年春ごろに製造販売承認申請を予定しています。その後、薬事承認、薬価収載というステップを順調に経ることができれば1年半程度で販売を開始できると見込んでいます。販売後は既存薬のシェアを徐々にとっていくこととなります。
2	資金調達など、資金繰りは大丈夫ですか？	9月末時点で約60億円を保有しています。年間の研究開発費などの経費は15億~20億円ですので約3年分に当たります。一方、2年後には後期臨床試験終了に伴う開発費の減少、ENT103およびVB-111の販売開始が続くと見込んでおり、(追加の資

		金調達を行わずに) 現有の資金で間に合うものと考えています。
3	配当がないから市場から見向きもされないのではないのでしょうか？	大手製薬企業は、売上高に対し 10-20%程度にあたる 1,500 億円以上もの研究開発費を毎年投じています。一方、上場バイオ企業は赤字企業で、研究開発に数十億円規模しか投下できません。それでも大手製薬企業と同等の開発リスクを負って競争しています。当社は、まずは困っている方々に薬を届けたい気持ちを強く持ち活動しています。この企業理念をご理解いただけますと幸いです。
4	株主対策について考えていますか？	結果を出すことで、株主様へ報いていくことです。臨床開発の結果とともに、M & Aなども推進し、利益を上げていきたいと考えています。
5	8 年ほどナノキャリア株を保有しています。現状の株価は下がっていますが、どうお考えでしょうか？	バイオ市場の下げが厳しい状況ですが、当社臨床開発品にネガティブ材料の発表はありません。今年の後期臨床試験の結果が取得できる見込みです。新興市場の投資環境は低迷が続いておりますが、中でもバイオ市場は結果が大事であり、今年取得する結果が企業価値（株価）向上への最大のポイントになると考えています。
6	10 年ほど前に 3000 円で保有しましたが、現在は、なぜ下がっているのですか？	2012 年に iPS 細胞の発見により京都大学の山中教授がノーベル賞を受賞され、国内バイオ市場に大きな期待が集まり株価が何倍にもなりました。その後、国内においては、上場バイオ企業にも結果や業績を求める投資環境変化が起こっていると考えています。

以上